

1-7 英語学

研究・教育活動の概要と特色

英語学専門分野では、生成文法 (generative grammar) 理論を中心とする現代言語学の観点から英語の研究を行っている。生成文法理論は、人間の言語知識・言語能力の科学的解明を中心課題としている。したがって、本専攻分野の言語研究は、英語を主たる研究対象としながら、日本語、フランス語、中国語などすべての人間言語を研究対象とし、英語の言語的特性の解明と並んで、すべての人間言語に共通の普遍的特性、すなわち普遍文法 (universal grammar) の解明に寄与することをめざしている。

具体的領域としては、統語論、意味論、語用論、機能論、形態論、第1・第2言語習得、比較言語学、等々の多様な側面からの研究・教育が行われている。研究のアプローチも多様であり、英語の実証的研究、言語普遍性の解明をめざす類型論的研究、言語理論の進展をめざす理論的研究、理論的英語学研究の成果に基づく新たな学習英文法の構築をはじめとする英語教育分野への応用研究、等々が行われている。

生成文法に基づく言語研究は、過去の研究による蓄積を踏まえると同時に、常に最先端の研究動向に気を配る必要がある。本研究分野は、日本有数の研究文献の蓄積を有すると同時に、研究ネットワークやインターネットを通して、常に国内外の研究情報が入手できる体制を整えている。また、これらの研究情報は、学外研究者にも提供しており、研究ネットワークの形成にも寄与している。

I 組織

1 教員数 (2013年9月末現在)

教授：1

准教授：1

講師：0

助教：0

教授：金子義明

准教授：島 越郎

2 在学生数 (2013年9月末現在)

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
33	0	3	8	0

3 修了生・卒業生数（2009～2013年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
09	13	2	3
10	11	3	2
11	8	0	1
12	9	2	1
13	0	0	0
計	41	7	7

* 2013年度は、9月末までの数字

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2009～2013年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
09	3	0	3
10	2	0	2
11	1	0	1
12	1	0	1
13	0	0	0
計	7	0	7

* 2013年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

江本博昭、2009年度、*Ellipsis and Movement in Phase Theory*.

審査委員：教授・金子義明（主査）、教授・後藤 齊、准教授・島 越郎

菅野 悟、2009年度、*Finiteness and Specificity in the Minimalist Program*.

審査委員：教授・金子義明（主査）、教授・千種眞一、准教授・島 越郎

中村太一、2009年度、*Aspects of the Theory of Merge*.

審査委員：教授・金子義明（主査）、教授・大河内昌、准教授・島 越郎

薛 芸如、2010年度、『存在文における相特性と叙述様式』

審査委員：教授・金子義明（主査）、教授・千種眞一、准教授・島 越郎

北田伸一、2010年度、*A Theory of Linearization in the Minimalist Program*.

審査委員：教授・金子義明（主査）、教授・大河内昌、准教授・島越郎
朝賀俊彦、2011年度、*Constructional Denominalization*.

審査委員：教授・金子義明（主査）、教授・大河内昌、准教授・島越郎
梶本顕士、2012年度、*A Study of the Theta System: Syntactic Realization of Verbal and Adjectival Concepts*.

審査委員：教授・金子義明（主査）、教授・大河内昌、准教授・島越郎

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
09	8	1	1	2	12
10	6	1	0	0	7
11	9	0	2	0	11
12	8	1	0	0	9
13	9	0	0	0	9
計	40	3	3	2	48

* 2013年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
09	0	8	12	1	21
10	0	8	12	1	21
11	0	7	15	0	22
12	2	9	13	0	24
13	2	6	10	0	18
計	4	38	62	2	106

* 2013年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

Nakamura, Taichi “Headed Relatives, Free Relatives, and Determiner-Headed Free Relatives,” *English Linguistics* 26, 2009.

Kitada, Shin-ichi “On the Relation between Projections and Adjunction Sites,” *FLC*

Working Papers in Linguistics 9, 2009.

山本明美, E.H.ジェーゴ, 内藤永「医学部教員と英語教員のチームティーチングによる模擬症例報告の指導を含む医学英語教育」 *Journal of Medical English Education* Vol. 8, 2009.

内藤永「医学英語を取り巻く環境の変化と医学英語教育のニーズ」『文部科学通信』 No.225, ジアース教育新社, 2009.

内藤永「地方の産業界における英語使用実態」『文部科学通信』 No.226, ジアース教育新社, 2009.

内藤永「医学論文執筆に向けた英語準備教育」福井希一他編『ESP 的バイリンガルを目指して』大阪大学出版会, 2009.

Kitada, Shin-ichi “The Right Roof Constraint in the Minimalist Program,” *Explorations in English Linguistics* 24, 2010.3.

Nakamura, Taich “Feature Inheritance and Phase-Driven Head Movement,” *Explorations in English Linguistics* 24, 2010. 3.

Taichi, Nakamura “Object Honorification and Intervention Effects,” *JELS* 27, 日本英語学会, 2010.

Kitada, Shin-ichi “Feature Inheritance and A/A' Properties of Non-DP Subjects” *JELS* 27, 日本英語学会, 2010.

Kitada, Shin-ichi “Feature Inheritance and Heavy NP Shift” 『文化』, 第 73 巻第 3・4 号, 2010.

Emoto, Hiroaki “Spell-Out Domains,” *Explorations in English Linguistics* 24, 2010. 3.

Kitada, Shin-ich “An Edge Feature as a Trigger of Head Movement,” *FLC Working Papers in Linguistics* 10, 2010.

梶本顕士 “On the Argument Structure of *Rude* Type and *Eager* Type of Adjective,” 『文化』, 第 74 巻第 1・2 号, 2010.

Kitada, Shin-Ich “C-to-T Inheritance of Edge Features,” *Studies in English Literature* 52, 77-101, 2011.3.

Asaka, Toshihiko “Denominalizing Constructions,” *Explorations in English Linguistics* 25, 2011.3.

Sato, Motoki “Phases and VP Ellipsis,” *Explorations in English Linguistics* 25, 2011.3.

Totsuka, Masashi “Cartography and Spell-Out Domains,” *Explorations in English Linguistics* 25, 2011. 3.

Arano, Akihiko “Uninterpretable Features and the Immobility of Constituents”

- Explorations in English Linguistics* 25, 2011. 3.
- Arano, Akihiko “Uninterpretable Features and the Immobility of Constituents” *JELS* 28, 2011.
- 梶本顕士「心理動詞における項の共起制限」 *Proceedings of the 83rd General Meeting of the English Literary Society of Japan*, 2011.
- 梶本顕士 “Rude Type and Eager Type Adjectives from the Perspective of the Theta System,” 『東北英文学研究』第2号（『英文学研究支部統合号』第4号）, 2011.
- 三好暢博・内藤永・戸澤隆広「ESP教材の段階的読解演習について—語彙学習の観点から」 *ESP Hokkaido Journal* 1, 2011.
- Miyoshi, Nobuhiro and Takahiro Tozawa “Feature Inheritance and a Condition on Pure EPP Satisfaction” 『北海道英語英文学』56号（『英文学研究（支部統合号 Vol. IV）』）, 2011.
- Miyoshi, Nobuhiro and Takahiro Tozawa “Feature Inheritance and EPP Satisfaction,” 神田外大言語科学研究センター2010年度ワークショップ論文集, 2011.
- Kitada, Shin-ichi, “Passive as a Consequence of Feature Inheritance,” 神田外大言語科学研究センター2010年度ワークショップ論文集, 2011.
- Arano, Akihiko “On Certain Differences between Locative and Quotative Inversion,” *Explorations in English Linguistics* 26, 2012. 3.
- Miyoshi, Nobuhiro “Partial Inheritance and Head Adjunction,” *Explorations in English Linguistics* 26, 2012. 3.
- Sato, Motoki “A Minimalist Analysis of Expletive Constructions and *Do*-support,” *Explorations in English Linguistics* 26, 2012. 3.
- Sugimoto, Kenji “On Agentive Verbs of Manner of Motion in the Theta System,” *Explorations in English Linguistics* 26, 2012. 3.
- 戸塚将 「分離 CP 仮説におけるフェイズ主要部」 *Proceedings of the 84th General Meeting of the English Literary Society of Japan*, 2012.
- 戸塚将 “Cartography and Spell-Out Domains,” 日本英文学会東北支部第66回大会 Proceedings, 2012.
- Arano, Akihiko “Uninterpretable Features and the Immobility of Constituents,” *JELS* 29, 2012.
- Sato, Motoki “Two Types of VP-Ellipsis,” *JELS* 29, 2012.
- Miyoshi, Nobuhiro “Shigeru Miyagawa, *Why agree? Why move? Unifying*

Agreement-Based and Discourse Configurational Language,” *Studies in English Literature* (English Number) No. 53, 2012.

Kojima, Satsuki, Soichi Ota “Shadowing, dictation and reading aloud: which is effective?” TOHOKU TEFL JACET 4, 2012.

Sakabe, Toshiyuki, Hisashi Naito, Hiroko Miura, and Masashi Takemura “Preliminary Research on Overseas Internships in Singapore,” The JACET International Convention Proceedings — The JACET 51st International Convention, 2012.

Sugimoto, Kenji “*Rude* Type and *Eager* Type Adjectives from the Perspective of the Theta System,” 『英文学研究支部統合号』 4, 2012.

Sugimoto, Kenji “Co-occurrence Restrictions on Arguments in the Theta System,” *English Linguistics* 29-2, 2012.

Miyoshi, Nobuhiro “A Note on the focus particle *bakari*,” *Studies in English Linguistics and Literature* 23, 2013.

Totsuka, Masashi “On Phase Head in Split CP Hypothesis,” *English Linguistics* 30-1, 2013.

Arano, Akihiko “Two Types of Main Verb Inversion in English,” *JELS* 30, 2013.

Sato, Motoki “A Unified Analysis of Expletives and *Do*-Support,” *JELS* 30, 2013.

Sato, Motoki “Two Types of VP Ellipsis,” *English Linguistics* 30-2, 2013.

Arano, Akihiko “Uninterpretable Features and the Immobility of Constituents,” *English Linguistics* 30, 2013.

Totsuka, Masashi ‘Syntactic Distinctness and Phase Head,’ *Explorations in English Linguistics* 27, 2013.

Arano, Akihiko “On Spell-Out of ‘Intermediate Projections’,” *Explorations in English Linguistics* 27, 2013.

Sato, Motoki “V-Stranding VP-Ellipsis in English,” *Explorations in English Linguistics* 27, 2013.

(2) 口頭発表

中村太一 「謙讓化と介在効果」 日本英語学会第 27 回大会, 大阪大学 2009 年 11 月 15 日

北田伸一 “An Edge Feature as a Trigger of Head Movement,” The Formal Linguistic Circle, 東北学院大学 2009 年 7 月

北田伸一 “Feature Inheritance and A/A’ Properties of Non-DP Subjects,” 日本英語学

- 会第 27 回大会, 大阪大学 2009 年 11 月 14 日
- 朝賀俊彦 「疑似部分構造に生起する数量詞的名詞について」 第 139 回日本語学会, 神戸大学 2009 年 11 月 25 日
- 内藤永, 坂部俊行, 柴田晶子, 竹村雅史, 三浦寛子, 山田恵, 吉田翠, 渡辺真美
「小規模事業所の海外取引に関わる実務英語の事例研究—商談会における英語使用の問題点」 大学英語教育学会北海道支部第 2 回研究会, 北海学園大学
2009 年 8 月 1 日
- 内藤永「医学英語論文執筆を巡る諸問題」 旭川医科大学フォーラム, 旭川医科大学
2009 年 8 月 26 日
- 坂部俊行, 竹村雅史, 山田恵, 内藤永「職場における英語使用者が抱く英語基礎力像」 第 48 回大学英語教育学会全国大会, 北海学園大学 2009 年 9 月 5 日
- 内藤永「グローバル社会における医学英語教育」 第 48 回大学英語教育学会全国大会, 北海学園大学 2009 年 9 月 6 日
- 佐藤元樹 “Gapping and Small Coordination,” 第 44 回新潟大学英文学会, 新潟大学,
2009 年 10 月 17 日
- 薛芸如「中国語の存在文—「有」と「在」について—」 ポスター 第 59 回日本中国語学会, 北海道大学 2009 年 10 月 24-25 日
- 内藤永「要約課題を通じたジャンル分析力の育成—医学部における授業実践」 広島 ESP セミナー『ESP の理論と実践』, 広島大学 2010 年 2 月 20 日
- 薛芸如「中国語の存在文におけるアスペクト標識」 日本中国語学会関東支部第 4 回拡大例会, 明海大学 2010 年 3 月 20 日
- 梶本顕士「不定詞節を伴う形容詞句の構造」 第 82 回日本英文学会, 神戸大学 2010 年 5 月 30 日
- 内藤永「事業所の抱える問題と研究課題」 第 49 回大学英語教育学会全国大会、シンポジウム『グローバル企業で使用される書類の言語学的特徴』 宮城大学
2010 年 9 月 7 日
- 戸塚将 “Interpretations on Spell-Out in Japanese,” 東北英文学会, 2010 年 9 月 25 日
- 佐藤元樹 “On the Derivation of Gapping Construction,” 東北英文学会, 2010 年 9 月 25 日
- 内藤永「医学論文のスタイルと執筆を巡る諸問題」 日本薬学図書館協議会研究集会, 奥羽大学 2010 年 9 月 2 日
- Kitada, Shin-ichi “Passive as a Consequence of Feature Inheritance,” 言語学ワークショップ, 東北大学 2010 年 11 月 29 日 [国際学会]

- 梶本顕士「心理動詞における項の共起制限」第 83 日本英文学会，北九州市立大学
2011 年 5 月 21 日
- 三好暢博「反一致現象をめぐる諸問題」HTL，北見工業大学 2011 年 8 月 12 日
- 小島さつき “10 Intriguing Teaching Techniques,” 全国語学教育学会 (JALT) 仙台支
部，仙台市民会館 2011 年 8 月 28 日
- 小島さつき・太田聡一 “The effectiveness of shadowing and reading aloud,” 東北 ETJ
(English Teachers in Japan) Expo, 東北福祉大学 2011 年 10 月 30 日
- 佐藤元樹 “Two Types of VP Ellipsis,” 第 29 回日本英語学会，新潟大学 2011 年 11
月 13 日
- 荒野章彦 “Uninterpretable Features and the Immobility of Constituents,” 第 29 回日本
英語学会，新潟大学 2011 年 11 月 13 日
- 戸塚 将 “Cartography and Spell-Out Domains,” 第 66 回日本英文学会東北支部大会，
東北大学 2011 年 11 月 26 日
- 三好暢博「人称標示における不透明性の問題：一致現象における統語と形態の役
割分担」ワークショップ『極小主義計画に基づく非印欧語族の統語分析の展
望』（司会：三好暢博）第 2 回北海道理論言語学研究会，北海道教育大学
旭川校 2011 年 12 月
- 三好暢博 “Reductionism in Elementary Operations,” 第 3 回北海道理論言語学研究，
旭川医科大学 2012 年 3 月
- 戸塚 将「分離 CP 仮説におけるフェイズ主要部」，第 84 回日本英文学会，専修
大学 2012 年 5 月 26 日
- 内藤永「産業界が求める英語力」第 26 回大学英語教育学会北海道支部大会シンポ
ジウム，北海学園大学 2012 年 7 月 14 日
- 三好暢博 “Phrase Structure,” ワークショップ “Workshop on Phrase Structure” (司
会：三好暢博)，第 4 回北海道理論言語学研究会，北海道教育大学旭川校
2012 年 8 月
- Sakabe, Toshiyuki, Hisashi Naito, Hiroko Miura, and Masashi Takemura “Preliminary
Research on Overseas Internships in Singapore,” The JACET 51st International
Convention, 愛知県立大学 2012 年 8 月 31 日-9 月 2 日 [国際学会]
- Sakabe, Toshiyuki and Hisashi Naito “Research on Business English Use in a Japanese
Restaurant in Singapore,” Association for Business Communication 77th Annual
International Convention, Waikiki Beach Marriott, Honolulu, Hawaii. 2012 年 10 月
23-27 日 [国際学会]

- 荒野章彦 “Two Types of Main Verb Inversion in English,”第 30 会日本英語学会，慶應義塾大学 2012 年 11 月 10 日
- 佐藤元樹“A Unified Analysis Expletives and *Do*-support” 第 30 回日本英語学会，慶應義塾大学 2012 年 11 月 10 日
- 一ノ渡雄貴 “The Double Object Construction and the Preposition in English,” 第 67 回日本英文学会東北支部大会，盛岡大学 2012 年 11 月 17 日
- 小島さつき・太田聡一「シャドーイング、音読、ディクテーションの指導法と効果」大学英語教育学会東北支部 2012 年
- 三好暢博 「Wager-class verbs と素性継承: 反一致現象としての考察」日本英語英文学会第 23 回年次大会，シンポジウム「非定形節の諸問題」，東京家政大学（板橋キャンパス） 2013 年 3 月 2 日
- 三好暢博・戸澤隆広「取り立て助詞の VP-scope に関する考察」日本英語英文学会第 23 回年次大会，東京家政大学（板橋キャンパス） 2013 年 3 月 2 日
- 三好 暢博 「wh-copying の理論的意義」第 5 回北海道理論言語学研究会，北海道教育大学旭川校 2013 年 3 月 7 日
- 内藤永「大学の出口教育」大学英語教育学会北海道支部大会，シンポジウムオーガナイザー 2013 年 7 月 6 日
- Terauchi, H., T. Araki, M. Terui, R. Fujita, K. Miki, M Ando, and H. Naito “Questionnaire Survey on Difficulties Encountered in English Business Meetings at Japanese Companies.” The 19th European Symposium on Languages for Special Purposes. University of Vienna, Vienna, Austria. 2013 年 7 月 8-10 日 [国際学会]
- Terauchi, H., H. Naito, T. Araki, M. Terui, R. Fujita, K. Miki, and M. Ando 「JACET-EBP Symposium: ビジネスミーティングに関するアンケートとインタビューによる調査：調査の背景と集計結果」大学英語教育学会 2013 年 8 月 30 日-9 月 1 日
- Sakabe, T., H. Naito and H. Miura “Challenging Exploratory Experiment: Improving Communication Skills through an Internship in Singapore.” 日本工学教育協会 2013 年 8 月 29 日-31 日
- Sakabe, T. and H. Naito “Perceived Self-Efficacy in Usage of English through a Short-Term Overseas Internship.” The 78th Annual Convention of Business Communication International Conference. The Intercontinental Hotel, New Orleans, Louisiana, USA. 2013 年 10 月 23-26 日 [国際学会]
- 戸塚将「統語的必異性とフェイズ主要部」第 31 回日本英語学会，福岡大学 2013

年 11 月 10 日

荒野章彦「中間投射の排出」第 31 回日本英語学会，福岡大学 2013 年 11 月 10 日
戸塚将「カートグラフィックとフェイズ・モデル」第 68 回日本英文学会東北支部大会，シンポジウム，東北工業大学 2013 年 11 月 24 日

3 大学院生・学部生等の受賞状況

内藤永 日本医学英語教育学会 第 5 回植村研一賞 2009 年 7 月
北田伸一 日本英語学会 2012 年度 *English Linguistics* 研究奨励論文 2012 年 3 月

4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

5 留学・留学生受け入れ

5- 1 大学院生・学部学生等の留学数

2010 年度 学部 計 2 名 アメリカ合衆国（カリフォルニア大学サンタ・クルーズ校）、シンガポール（シンガポール国立大学）

5- 2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
09	1	0	1
10	1	0	1
11	0	0	0
12	1	0	1
13	1	0	1
計	4	0	4

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
09	0	0	0
10	1	0	1
11	0	2	2
12	1	0	1
13	0	0	0
計	2	2	4

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

- Daniela Lupsa 岩手県立大学講師 2009年度
佐藤陽介 National University of Singapore, Visiting Fellow 2009年度
戸澤隆広 東北大学大学院文学研究科助教 2009年度
戸澤隆広 北見工業大学准教授 2009年度
菅野 悟 北海道教育大学（旭川校）准教授 2010年度
江本博昭 旭川医科大学講師 2011年度
中村太一 東北大学大学院文学研究科助教 2011年度
佐藤陽介 National University of Singapore, Associate Professor 2011年度
中村太一 福井大学講師 2013年度
北田伸一 東京理科大学講師 2013年度
小島さつき 埼玉医科大学講師 2013年度
梶本顕士 北海道教育大学（釧路校）講師 2013年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

中学校・高等学校教員 2名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

Explorations in English Linguistics (1982年より年刊で刊行)

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

- 2009年 岸本秀樹（神戸大学）講演会
2010年 言語学ワークショップ（神田外大言語科学研究センターと共催）
 ゲスト講師 Guglielmo Cinque 氏（Università Ca' Foscari Venezia）
 Cedric Boeckx 氏（Universitat Autònoma de Barcelona）
2011年 日本英文学会東北支部大会第64回大会（英文学専攻分野と共同）

2012年 日本英文学会第85回大会（英文学専攻分野と共同）

1.2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2009年度

仙台英語学談話会 4月25日、5月30日、6月25日、7月25日、9月26日、
10月31日、11月28日、12月22日

博士課程前期一年生対象読書会 毎週月曜日

院生読書会 毎週水曜日

2010年度

仙台英語学談話会 4月24日、5月22日、6月26日、7月31日、9月25日、
10月30日、11月27日、12月25日

博士課程前期一年生対象読書会 隔週火曜日

院生読書会 毎週水曜日

2011年度

仙台英語学談話会 5月14日、6月25日、7月30日、8月31日、10月29日、
11月26日、12月26日

博士課程前期一年生対象読書会 毎週月曜日

院生読書会 毎週水曜日

2012年度

仙台英語学談話会 4月27日、6月1日、6月30日、7月27日、9月29日、
10月27日、12月1日、12月26日

博士課程前期一年生対象読書会 毎週月曜日

院生読書会 毎週水曜日

2013年度

仙台英語学談話会 4月27日、5月31日、6月29日、7月29日、9月28日、
10月26日、11月30日、12月26日

博士課程前期一年生対象読書会 毎週火曜日

院生読書会 毎週水曜日

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

学部では、毎年、定員数の10人程度の学生が英語学を志望している。授業は、概論、基礎講読（以上、2年次対象）、講読、各論、演習（以上、3年次以上対象）に分かれている。授業の内容は、英語学の標準的な知識が学年進行で積み上げられていくように

編成されている。また「高等英文解釈法」や「英語論文作成法」の履修指導等により英語力そのものの向上にも努めている。また、4年次生対象に、授業とは別に、4月から12月の間にほぼ隔月で卒論指導の時間を設けており、卒論テーマの選定、文献の選定、論文作成手順、論文書式等々について指導を行っている。

大学院生は、基本的には、自由に研究テーマを選び研究を進めている。授業では、主として、オーラルレポートによって理論上重要な文献の紹介・検討を行い、また、提出されたレポートに基づく個別の研究指導に重点を置いている。院生が自主的に行っている読書会や研究会も盛んである。博士課程後期の学生が前期課程の新入生を指導する体制は研究室発足時から行われている伝統である。月例の研究会「仙台英語学談話会」には教員・院生が参加して研究発表・討論を行っている。

このような活動の結果は、日本英語学会、日本英学会、日本言語学会等の学会や研究会での発表や、学会機関誌や本専攻分野研究誌 *Explorations in English Linguistics* 等における論文として結実している。国際学会での発表も増加しており、この5年間に4件行われている。このような研究成果の積み重ねが博士論文へとつながるよう指導しており、過去5年間に7名が課程博士号を取得している。

研究室の環境に目を転ずると、心要な基本的文献のほとんどが学生の研究室に常備されており、自由に利用できる。このような中で、院生同士は活発に議論を交わし、情報交換をしている。学部生と院生の交流も密であり、特に、学部4年次に行われる演習のオーラルレポートでは、院生がチューターとして学部生の発表の指導をしている。

これらの教育・研究に加えて、近年隣接専攻分野との共同研究も盛んである。2002年度より開始された、英語学、心理学、言語学、仏語学、日本語教育の教員による「認知脳科学研究プロジェクト」に参加継続中である。平成17年度には英語学研究成果を英語学習・英語教育に還元するためのプロジェクトが始まっており、平成18年度にワークショップ『英文法：理論と学習文法のインターフェイス』を開催すると共に、金子は平成23年度に英語学の研究成果を英語教育に還元することを目的とした論文集に参加している。平成24年度には関連するテーマで学会ワークショップの講師に招かれた。

以上のように、過去5年間、本専攻分野は、生成文法理論に基づく英語学研究の研究・教育拠点としての特色をいかした研究・教育活動を行ってきた。今後は、国際学会における研究発表促進等により、国外へ向けた教員及び院生の研究成果発信の活発化に努めたい。

Ⅲ 教員の研究活動（2009～2013年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

- 金子義明「英語法助動詞の時制解釈について」『東北大学文学研究科研究年報』58号, pp. 29-63, 2009.
- 金子義明「不完全性修復メカニズムとしての現在形未来表現規則について」『東北大学文学研究科研究年報』59号, pp. 47-70, 2010.
- Kaneko, Yoshiaki “Conditional *If*-Clauses and the Modal Operator in Performative Phrase.” 遠藤喜雄（編）『言語科学研究 特別号 談話のカートグラフィー研究：主文現象と複文現象の統合を目指して』神田外語大学大学院, pp. 93-123, 2010.
- 金子義明「遂行句 PfmP の節としての特性について」『東北大学文学研究科研究年報』60号, pp. 52-66, 2011.
- 金子義明『機能範疇の統語特性と解釈特性を巡って—シンポジウムの背景と目標』*Proceedings from the 83rd General Meeting of the English Literary Society of Japan*, pp. 147-149, 2011.
- 金子義明「意味解釈規則と不完全性修復メカニズム」『東北大学文学研究科研究年報』61号, pp. 63-81, 2012.
- 金子義明「動詞の存在とその内と外」藤田耕司他（編）『最新言語理論を英語教育に活用する』開拓社, pp. 234-243, 2012.3.
- 金子義明「英語における時制の内部素性とその分布特性について」『東北大学文学研究科研究年報』62号, pp. 29-60, 2013.
- 金子義明「これからの英語教育と新たな学習英文法構築の可能性について」『2012年度日本英文学会中部支部大会 Proceedings』, pp. 179-180, 2013.
- 金子義明「学校英文法の新たな枠組みの構築に向けて」『文化』第77巻1・2号, 2013.
- 島越郎「省略文の派生：コピーと削除」『東北大学文学研究科研究年報』第58号, pp.93-112, 2009.
- 島越郎「LF コピーと PF 削除による省略文の分析」*JELS 27:Papers from the 27th Conference of the English Linguistic Society of Japan*, pp.227-235, 2010.
- 島越郎「省略文における再分析」『東北大学文学研究科研究年報』第60号, pp.61-90, 2011.
- 島越郎「削除現象を巡る機能範疇の統語特性と解釈特性：削除現象から考える文の左方周縁部」*Proceedings from the 83rd General Meeting of the English Literary Society of Japan*, pp150-152, 2011.

- 島越郎「フェイズに基づく LF コピーと PF 削除：動詞句削除、擬似空所化、空所化の違いについて」『東北大学文学研究科研究年報』第 61 号, pp.41-61, 2012.
- 島越郎「省略文に課せられる同一性の問題」『東北大学文学研究科研究年報』第 62 号, pp.61-89, 2013.
- Nakamura, Taichi “Determiner-Headed Free Relatives as Covertly Headed Relatives,” *JELS* 26, pp. 199-208, 2009.
- Nakamura, Taichi “Internal Pair-Merge: The Fourth Type of Merge,” *Explorations in English Linguistics* 23, pp. 35-83, 2009.3.
- Nakamura, Taichi “Headed Relatives, Free Relatives, and Determiner-Headed Free Relatives,” *English Linguistics* 26, pp. 329-355, 2009.
- Nakamura, Taichi “Feature Inheritance and Phase-Driven Head Movement,” *Explorations in English Linguistics* 24, pp. 159-188, 2010.3.
- Nakamura, Taichi “Object Honorification and Intervention Effects,” *JELS* 27, pp. 157-166, 2010.
- Nakamura, Taichi “Phase Theory and Head Movement,” 言語科学研究特別号『談話のカートグラフィー研究：主文現象と複文現象の統合を目指して(2)』, 神田外語大学大学院, pp. 197-210, 2011.3.
- Nakamura, Taichi “Feature Inheritance and Head Movement,” *JELS* 28, pp. 110-116, 2011.
- 中村太一「学習英文法における構造上の多義性」, 『文化』 75, 157-169, 2012.
- 中村 太一 「主要部移動と句構造構築」, *JELS* 30, 146, 2013.
- Taichi Nakamura “Voice Mismatches in Sloppy VP Ellipsis,” *Linguistic Inquiry* 44, 2013.

1-2 著書・編著

- Yoshiaki Kaneko and Etsuro Shima (eds.), *Explorations in English Linguistics* 24, Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University, Sendai, 2010.3.
- Yoshiaki Kaneko and Etsuro Shima (eds.), *Explorations in English Linguistics* 25, Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University, Sendai, 2011.3.
- Yoshiaki Kaneko and Etsuro Shima (eds.), *Explorations in English Linguistics* 26, Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University, Sendai, 2012.3.
- Yoshiaki Kaneko and Etsuro Shima (eds.), *Explorations in English Linguistics* 27, Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University, Sendai, 2013.

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

(1) 書評

Shima, Etsuro “Kyle Johnson (ed.) *Topics in Ellipsis*,” *Studies in English Literature* 51, pp.178-188, 2010.

(2) 解説

1-4 口頭発表

(1) 国際学会

Kaneko, Yoshiaki “Conditional *If*-Clauses and the Modal Operator in Performative Phrase.” ワークショップ『統語と談話のインターフェイス』神田外語大学言語科学研究センター(CLS), 2010年3月5日

(2) 国内学会

金子義明 シンポジウム『機能範疇の統語特性と解釈特性』企画・司会, 第83回日本英文学会, 北九州市立大学, 2011年5月22日

金子義明 「これからの英語学教育と新たな学習英文法構築の可能性」, 2012年度日本英文学会中部支部大会シンポジウム『新学習指導要領時代の英語学教育』, 南山大学, 2012年10月28日

島越郎 「LF コピーと PF 削除による省略文の分析」, 第27回日本英語学会, 研究発表, 大阪大学, 2009年11月15日

島越郎 「削除現象を巡る機能範疇の統語特性と解釈特性: 削除現象から考える文の左方周縁部」, 第83回日本英文学会, シンポジウム『機能範疇の統語特性と解釈特性』, 北九州市立大学, 2011年5月22日

中村太一 「主要部移動と句構造構築」, 第30回日本英語学会, 研究発表, 慶應義塾大学, 2012年11月10日

中村太一 “Voice Mismatches in Ellipsis,” 第30回日本英語学会, ワークショップ, 慶應義塾大学, 2012年11月10日

中村 太一 (2013) 「極小主義における主要部移動」, 北海道理論言語学研究会第5回大会, 北海道教育大学旭川校, 2013年3月7日

2 教員の受賞歴 (2009~2013年度)

金子義明 市河賞 (財団法人語学教育研究所) (2009年度)

IV 教員による競争的資金獲得 (2009~2013 年度)

(1) 科学研究費補助金

平成 21-23 年度 科学研究費補助金基盤研究 (C) 金子義明 (研究代表者) 課題番号 21520498 「言語計算機構の不完全性修復システムとしてのインターフェースレベル研究」 3,200,000 円 (3 年間総額)

平成 24-26 年度 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金 (基盤研究 (C))) 金子義明 (研究代表者) 課題番号 24520525 「話者視点の統語的具現化から見たインターフェース研究」 3,800,000 円 (3 年間総額)

平成 18-21 年度 科学研究費補助金「基盤研究(C)」 島越郎 (研究代表者) 課題番号 18520383 「削除文に課せられる統語条件と意味条件の研究」 2,970,000 円 (4 年間総額)

平成 22-24 年度 科学研究費補助金「基盤研究(C)」 島越郎 (研究代表者) 課題番号 22520488 「省略現象に関する統語論・意味論のインターフェイス研究」 3,250,000 円 (3 年間総額)

平成 25-27 年度 科学研究費補助金「基盤研究(C)」 島越郎 (研究代表者) 課題番号 25370542 「発音されない照応表現の研究」 3,640,000 円 (3 年間総額)

V 教員による社会貢献 (2009~2013 年度)

金子義明

日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員および国際事業委員会書面審査委員 (2009 年-2011 年)

進路講演会 (福島県立磐城高等学校) (2011 年)

島越郎

文学部オープンキャンパス公開講義 (2010 年)

みやぎ県民大学公開講座 (2010 年)

進路講演会 (仙台第一高等学校) (2010 年)

VI 教員による学会役員等の引き受け状況 (2009~2013 年度)

金子義明

東北大学英語学研究会代表 (2008 年-)

日本英語学会評議員 (2008 年-)

日本英語学会広報委員会委員 (2009 年-2011 年)

日本英語学会監事 (2011 年)

日本英語学会理事（2012年-）

日本英文学会監事（2013年-）

日本英文学会大学委員（2008年-2012年度）

島越郎

東北大学英語学研究会事務局長・編集委員（2008年-）

日本英語学会大会準備委員（2010年-）

日本英文学会編集委員（2013年-）

Ⅶ 教員の教育活動

（1）学内授業担当（2013年度）

1 大学院授業担当

教授 金子義明

- 1 学期 英語解析学特論Ⅰ 統語論・意味論インターフェイス研究Ⅰ
- 2 学期 英語解析学特論Ⅱ 統語論・意味論インターフェイス研究Ⅱ
- 1 学期 英語学研究演習Ⅰ 英語学の諸問題研究Ⅰ（島准教授と共同）
- 2 学期 英語学研究演習Ⅱ 英語学の諸問題研究Ⅱ（島准教授と共同）
- 通年 課題研究（英語学） 修士論文作成指導（島准教授と共同）

准教授 島越郎

- 1 学期 英語学特論Ⅰ 統語論と意味論における諸問題研究Ⅰ
- 2 学期 英語学特論Ⅱ 統語論と意味論における諸問題研究Ⅱ
- 1 学期 英語学研究演習Ⅰ 英語学の諸問題研究Ⅰ（金子教授と共同）
- 2 学期 英語学研究演習Ⅱ 英語学の諸問題研究Ⅱ（金子教授と共同）
- 通年 課題研究（英語学） 修士論文作成指導（金子教授と共同）

講師 奥 聡（非常勤講師・北海道大学）

集中講義 英語学特論Ⅲ 言語理論における globality を考える

2 学部授業担当

教授 金子義明

- 3 セメスター 英語学講読 英語学の思考法Ⅰ
- 4 セメスター 英語学講読 英語学の思考法Ⅱ
- 5 セメスター 英語学演習 生成文法による英語分析Ⅰ

- 6 セメスター 英語学演習 生成文法による英語分析Ⅱ
- 7 セメスター 英語学演習 英語学の諸問題研究Ⅰ（島准教授と共同）
- 8 セメスター 英語学演習 英語学の諸問題研究Ⅱ（島准教授と共同）

准教授 島越郎

- 3 セメスター 英語学概論 英語統語論入門Ⅰ
- 4 セメスター 英語学概論 英語統語論入門Ⅱ
- 5 セメスター 英語学各論 英語形式意味論入門Ⅰ
- 6 セメスター 英語解析学各論 英語形式意味論入門Ⅱ
- 7 セメスター 英語学演習 英語学の諸問題研究Ⅰ（金子教授と共同）
- 8 セメスター 英語学演習 英語学の諸問題研究Ⅱ（金子教授と共同）

講師 奥 聡（非常勤講師・北海道大学）

集中講義 英語学各論 言語理論における globality を考える

3 共通科目・全学科目授業担当

教授 金子義明

大学院共通科目

- 1 学期 人文社会科学研究 言語認知脳科学Ⅰ（小泉政利准教授、行場次朗教授、才田いずみ教授、阿部宏教授と共同）
- 2 学期 人文社会科学研究 言語認知脳科学Ⅱ（小泉政利准教授、行場次朗教授、才田いずみ教授、阿部宏教授と共同）

（2）他大学への出講（2009～2013 年度）

教授 金子義明

- 宮城学院女子大学（2009 年度）
- 宮城学院女子大学（2010 年度）
- 宮城学院女子大学（2011 年度）
- 宮城学院女子大学（2012 年度）
- 宮城学院女子大学（2013 年度）
- 九州大学大学院文学研究科（集中講義）（2010 年度）

准教授 島越郎

宮城学院女子大学 (2012 年度)

宮城学院女子大学 (2013 年度)